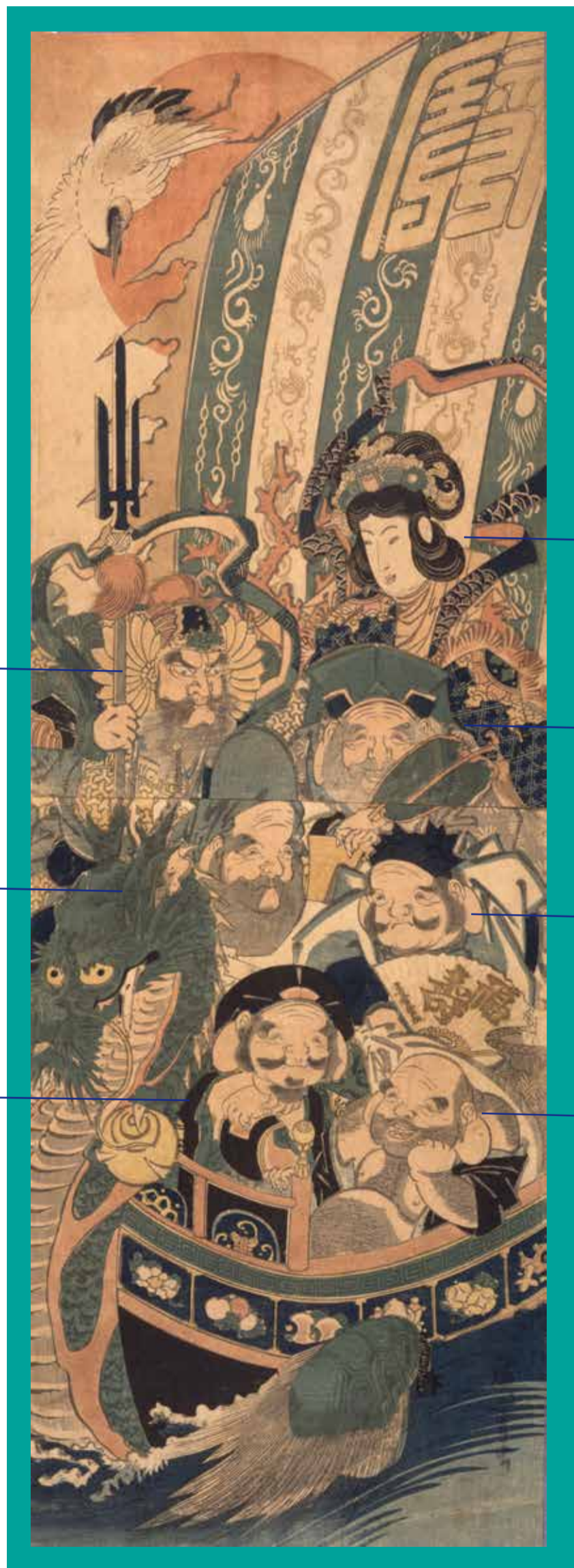


こどもうきよえ浮世絵しんぶん

第21号 藤沢市藤澤浮世絵館 2024年1月発行

めでたい夢が見られる？宝船



びしゃもんてん 毘沙門天

ふくろくじゅ 福祿寿

だいこくてん 大黒天

べんざいてん 弁財天

じゅろうじん 寿老人

えびす 恵比寿

ほてい 布袋

江戸時代には、宝船の絵がたくさん描かれました。帆に宝と書かれた宝船の中には、米俵や千両箱などの宝物が積まれ、恵比寿、大黒天、毘沙門天、布袋、福祿寿、寿老人、弁財天という七名の神様が乗っています。七名の神様は、幸せや豊かさをもたらす神として、七福神と呼ばれました。

七福神が勢ぞろいしているよ。長寿の神様、福祿寿のお供の鶴と亀もいるね。



江戸時代から明治にかけて、へお宝、お宝と声を張り上げながら、宝船の絵を売り歩くお宝売りという仕事がありました。

うたがわひろしげ だいめいふしょう しちふくじんたからぶね
▲歌川広重 「題名不詳 (七福神宝船)」

えのしまじんじゃ べんざいてん
江島神社には、弁財天が
まつられているよ。
えのしまじんじゃ たからぶね
江島神社の宝船だから、
べんざいてん せんとう
弁財天が船頭をしているね。



らくてんうつす え しまじんじゃ たからぶね
▼楽天写「江の嶋神社 宝船」



お正月の元旦か二日の夜に、宝船の絵を枕の下に敷いて寝ると、縁起の良い夢を見ることができると信じられていました。新しい年を迎えて初めて見る夢は、その年の幸運を占う夢占いに使われ、へ一富士・二鷹（愛鷹山）・三茄子（野菜のなす）は、高いもの（なすは初なすの値段）の代表として、縁起の良い夢とされました。悪い夢を見たときは、次の日の朝、宝船の絵を川へ流しました。



歌川国芳「(題名不詳) 弁財天」

べんざいてん
弁財天は、
おんがく げいのう
音楽や芸能、
きんうん アップの
ふく かも
福の神だよ。



今でも、お正月に七福神をまつっている寺社をめぐって開運を祈る、七福神めぐりが日本中で行われています。七福神めぐりをすると、財運や長寿、縁結び、出世など豊かさや幸せがもたらされると言われています。